



「私」から語る 世界のこと

北九大生 × 森達也 × 望月衣塑子 × 伊藤詩織
オンライン講演会

映画監督の森達也、新聞記者の望月衣塑子
ジャーナリストの伊藤詩織が
はじめて一堂に会し、北九大生とともに
「私」を主語にし「今の世界」を語り合います。

世界に広がるフェイクニュースや日本の政治
海外のジャーナリズム事情から
コロナ禍での学生生活まで
「伝える」ということをテーマに語られる
等身大の言葉をぜひお聞き下さい。

聴講
無料

2020年10月24日(土)
19時よりストリーム生配信!

お申し込み
お問い合わせ

イベント公式ホームページより受付中
<https://democratia2020.com/>



詳細は裏面へ

- 表現者として伝えるってどういうこと？
- 主語を「私」にして話すということとは
- 日本と海外とのメディアの違いは？

講演会では「表現者して伝えるってどういうこと？」「日本と海外のメディアの違いは？」など、いくつかのトピックスをとりあげて自由に話を進めてもらいます。

そのあと、1時間ほど北九州市立大学の学生5名との討論会をおこないます。学生それぞれの経験から講演者に聞きたいことや一緒に考えたい疑問をぶつけていきます。学生ひとりひとりのバックグラウンドや考えはさまざまです。討論会に登壇する学生は、「信仰二世」として宗教による家庭・社会での葛藤を抱える学生、石垣島での生活で基地問題への疑問を持った学生、社会科の中学校教員を目指す学生、アートで社会を表現したいと考える学生、大学1年生など、それぞれの「私」の立場から、講演者3名と語り合います。

講演会プログラム

2020年10月24日 19:00～

- 18:30 開場
- 19:00 開会の挨拶
- 19:05 講演会
森達也・望月衣塑子・伊藤詩織
司会：緒方良子
- 19:55 休憩
- 20:00 討論会
森達也・望月衣塑子・伊藤詩織 × 北九大大生
- 21:00 閉会



森 達也

オウム真理教取材して制作されたドキュメンタリー映画「A」「A2」を通して、メディアが伝えてこなかったオウム真理教のもう一つの姿を明らかにした。その後、作曲家佐村河内氏の「ゴーストライター事件」をめぐる、「FAKE」というタイトルの作品を世に問うている。2019年には、望月衣塑子記者に焦点を当てた作品「i 新聞記者ドキュメント」を発表している。著書には「フェイクニュースがあふれる世界に生きる君たちへ」「同調圧力メディア」などがある。



望月 衣塑子

内閣官房長官の記者会見にて記者として出席し質問をおこなう姿が目撃された。元 TBS 支局長による準強姦事件・辺野古基地問題などについて現場での取材を重ね、真実を追っている。アメリカのニューヨークタイムズ紙は、現場に足を運びマイノリティーに耳をかたむける、彼女の勇敢で真摯な取材姿勢を日本のマスメディアの中では例外的な存在であると評価した。また俳優の松坂桃李とシム・ウンギョンが主演した映画「新聞記者」のモデルとなった。



伊藤 詩織

ジェンダーに関わる人権問題を主な焦点とし、ジャーナリストに限らず、作家そしてドキュメンタリー映画制作者として活躍している。2018年に発表したドキュメンタリー映画「孤独死」は、ニューヨークフェスティバルにて銀賞を受賞した。また彼女自身が受けた性被害について綴った著書「blackbox」は、自由報道協会のベストジャーナリズム賞を受賞している。日本の#MeToo運動の火付け役となり、今年のTIME誌にて「世界で最も影響力のある100人」に選出された。



緒方 良子

北九州市立大学大学院にて人類学を専攻し、子どもの学習に焦点を当てた研究をおこなっている。学部生時代に約8ヶ月にわたり石垣島と与那国島で生活する。その際、島に基地が配備されること、島がその賛否に二分化されてしまったこと、そして島で声をあげるのが難しいことなどを目の当たりにする。今の自分に何ができるかと考え、本講演会を企画した。

主催

デモクラティア 学問の自由

後援

北九州市立大学同窓会
北方シネマ
九州フィールドワーク研究会(野研)

イベント公式ホームページより参加受付中

<https://democratia2020.com/>

